



追手門学院大手前高校が WRO Future Engineers 部門で日本代表に ロボコン世界大会の自動運転部門に高校生が出場

追手門学院大手前中・高等学校（大阪市中央区、校長：大橋忠仁）ロボットサイエンス部に所属する高校 1 年生 3 人のチームが、世界最大級のロボットコンテスト「WRO (World Robot Olympiad) Japan」の自動運転技術を競う「Future Engineers 部門」において最優秀賞（1 位）を獲得し、日本代表に選出されました。同チームは、2026 年 9 月に開催される WRO Open Challenge 世界大会（インド大会）に出場し、世界一位を目指して各国と競います。



【3つのポイント】

- 大学生中心の部門において、高校 1 年生チームが日本代表に選出
- LiDAR センサーや AI 技術などを駆使して開発した自律走行ロボットで完走と速度を追求
- 世界約 60 カ国が参加する世界最大級のロボコン「WRO」に、ロボットサイエンス部として同部門初の出場

WRO は、世界最大級のロボットコンテストの 1 つで、高校生や大学生が様々な部門で各テーマに沿って得点などを競い合います。今回、本校の生徒が出場した「Future Engineers 部門」は、高度な自動運転技術をテーマとしており、センサーなどを搭載した車型のロボットを作成し、障害物をよけながら周回タイムを競う、通常は大学生や高等専門学校生が参加する難度の高い部門です。本校のロボットサイエンス部においても、同部門での世界大会出場権の獲得は、創部以来初の事例となります。

出場決定を果たしたのは、本校の高校 1 年生の大林奏太さん、池尻顕真さん、生田大喜さんの 3 人のチームです。チームは、壁に衝突することなく 3 周を 3 分以内で完走することを目指し、自作のロボットを開発しました。開発にあたっては、LiDAR（ライダー）センサー、超音波センサー、ジャイロセンサーなどを搭載し、高度な画像認識を組み合わせることで制御させるために、効率的な障害物のよけ方などを AI と壁打ちしながらプログラムを制作していききました。

世界大会は 9 月にインドで開催され、世界各国の代表チームが技術を競い合います。出場に向けて生徒らは「日本代表として、新たな歴史をつくりたい」と意気込み、世界一位を目指して挑戦します。

【WRO 世界大会 概要】

日時：2026 年 9 月 25 日～27 日

場所：インド、ハイデラバード（GMR Arena）

参加国・人数：約 60 カ国、1000 人以上

公式 URL：<https://oc26.wroindia.org/>

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課

TEL：072-641-9590 織田・所